

研究ニーズ一覧表

No.	研究して欲しいテーマ	現状と課題	研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日	掲載期限	備考
1	地域のつながりづくりとキーパーソンの発掘	本市は年々区・自治会活動の低下がみられている。また、現役世代の地域活動への参加がほとんどないため、地域住民同士のつながりも希薄になっている。区・自治会、公民館活動、学社連携などにおける地域の核となる人材が見つけられない状況である。	地域住民の区・自治会に対するニーズ分析による地域住民の地域活動への意識向上や、学生が企画する講座やイベントの開催など学生と協働した地域活動の実施による地域住民の居場所づくりを期待する。また、地域のキーパーソンの育成についてのアドバイスをいただきたい。	教育部 社会教育課	令和6年12月19日	令和10年3月31日	
2	外国人住民のキーパーソン、ネットワーク、自助組織等の調査	本市では、年々増加している在住外国人が地域住民として主体的に地域で活動できるよう、地域の外国人コミュニティのキーパーソンとなるような人物や外国人住民のネットワーク、外国人住民の自助組織等を把握し、連携・支援する必要があると考えている。現状では在住外国人との接点が殆ど無く、どのような外国人コミュニティなどが存在しているのかを把握できていない。	本市においてどのような外国人コミュニティなどが存在し、どのような活動をしているか、またどのような支援が必要とされているか把握した上で連携・支援を行うことにより、本市の多文化共生施策をより効果的に推進することができる。	市民部 市民参画課	令和6年12月19日	令和10年3月31日	
3	街区公園の維持管理について	本市では、地域の憩いの場である街区公園の維持管理(除草、中低木剪定等)について、これまで地元区・自治会の協力(無償)により除草等を行っていただいている。近年、区・自治会役員の高齢化、地域住民の担い手不足、区・自治会への未加入・脱会といった理由等により、街区公園の維持管理を地域のみで担っていただくことが難しい状況が生じている。	地域住民の担い手不足等は、地域社会が直面している問題であり、大学教員の専門分野の知見を活かし、現状の課題の分析と新しい維持管理方法の提案を期待する。	建設部 公園緑地課	令和7年12月5日	令和11年3月31日	
4	公園のリ・デザインについて	開発行為に伴い設置された小さな公園(街区公園)の中には、あまり利用されていない公園もある。また、小さな公園(街区公園)の維持管理は、区・自治会に依頼しているが、高齢化等により維持管理の継続していくのも厳しい現状である。これらのことから、公園の利活用や維持管理をしやすくするためにも、地域のアイデアで再整備していく必要が生じている。	大学教員の専門分野の知見を活かし、地域参加型のワークショップ等における、多様な意見の整理手法、公平性の高い合意形成の手法及び実施支援、学生(若者)の意見も取り入れ、地域コミュニティの活性化の促進につながる提案を期待する。	建設部 公園緑地課	令和7年12月5日	令和11年3月31日	令和8年度京田辺市 大学連携地域貢献研究 事業テーマとして 応募あり→採択
5	市子ども未来部公式Instagramの効果的な周知方法	子ども未来部では、各種子育て応援事業を実施しているにも関わらず、その情報が市民に届いていないことなどにより、「事業自体を知らなかった。利用したことがない。もっと早く知りたかった」といったご意見が寄せられることが多くあった。令和6年度の「京田辺市子ども計画」策定手続における審議過程やパブリックコメントにおいても、情報発信が課題であることが浮き彫りになり、計画を推進するにあたって、情報発信の強化に取り組むことを掲げ、令和7年10月から新たな情報発信強化事業として、市子ども未来部公式Instagramアカウントを開設した。開設以降、子育てを応援する投稿をアップしているが、投稿の内容を広く子育て世代に届けるため、市内の子育て世代を中心にフォロワーを増やしたい。	市子ども未来部公式Instagramのフォロワーや閲覧数の増加	子ども未来部 子ども未来政策推進室	令和7年12月5日	令和11年3月31日	

研究ニーズ一覧表

No.	研究して欲しいテーマ	現状と課題	研究から期待される効果等	要望・提案元	掲載日	掲載期限	備考
6	工芸文化(ものづくり)の充実、発展、発信、継承について	①会員の高齢化及び減少、後継者不足 ②制作に必要な材料、素材の不足(関係業者の移転、廃業等で調達に不自由をきたす)	・工芸文化の活発化 ・日本の誇る「ものづくり・手しごと」の魅力と可能性を研究者と当事者(制作者・会員)の連携協力によって、今後の活動の方針(指針)を進化させたい。	市民団体	令和7年12月5日	令和11年3月31日	
7	地域資源を使ったダンボールコンポスト基材の配合割合と堆肥としての効果	ダンボールコンポストに使う基材について研究して欲しい 1、段ボールコンポストの普及活動を始めたが、京田辺で入手できる材料を使ったオリジナル基材の最適な配合がわからない。 ＜現在使用したいと考えている基材の素材＞ ① 竹林整備で出る竹チップ(タナクロのプレイパーク竹林) ② 米ぬか(農協及び市内の精米機から) ③ 腐葉土(環境衛生センター天王碧水園で市内の剪定枝からつくる樹木チップ) ④ もみ殻燻炭(農協及び府内道の駅)、 ⑤ EMポカン 2、一定程度の市民への普及が進めば、市民がダンボールコンポストで作った堆肥を回収して農産物等を栽培、販売も考えている、市民の多様な暮らしから出てくる堆肥の安全性が知りたい。 3、コンポスト堆肥がどのような作物に適しているか研究してほしい。(ネギや葉物は良いように思うが、海老芋など根菜はあまり良くないように思う。イチゴや観葉植物が良いとの声もある)	・「京田辺〇〇〇ダンボールコンポスト」として販売する。 ・市民がコンポストで作った堆肥を回収し、その堆肥を使って農産物を生産、販売、また加工販売し、生ごみを使った市内循環型社会のシンボルとする。	市民団体	令和7年12月19日	令和11年3月31日	

※ 掲載されているテーマで詳細な話を聞きたいということであれば、京田辺市大学連携ディスカバリーベース[(市民参画課内)TEL0774-64-1314、Mail:discoverybase@city.kyotanabe.lg.jp]までお問い合わせください。